

夢と現実

鈴木ユウ

「夢は諦めなければ必ず叶う」というフレーズをよく見る。

例えば”声優になる”ことが夢であるならばそれで食べていけるかどうかは置いておけば免許があるわけでもないの”（自称）声優”になることもできる。

そういった意味で形を問わなければ夢は叶うと実際に養成所で講師をしてる方から伺った。

何を定義に【声優】とするのか。単純にアニメに声をあてることをそれとし、目標とするならばアニメを自主制作して声をあてれば目標達成である。

ラジオ放送をやってみたいというならインターネットラジオの配信という手がある。

今はインターネットが普及し、10年前20年前には考えられなかったことが可能になっている

。

確かにアニメや海外ドラマの吹き替えで大活躍の売れっ子声優になるという目標を立てなければ例のフレーズも嘘ではないと言えるだろう。

劇団と養成所

声優を目指すときに劇団に入るべきか養成所に入るべきか迷う人も多いだろう。

結果論としては単純にアニメ声優を目指すなら養成所がおすすめだ。

劇団に入れば基礎訓練をしっかりやれるイメージだが実際はほぼ肉体訓練のため舞台に立つには必要だが声優になるには遠回りになる。

養成所であれば肉体訓練はあまりなく発声・滑舌・表現を中心としたレッスンをを行う。

もちろん、各劇団や養成所によっても異なるが大まかな内容としては大体こんな感じである。

表の話と裏の話

どこの養成所でも表向きは「誰にでも可能性はあります」というようなことを書いてある。

「年齢・性別・レッスン暦問いません」と書いてあったりもする。

しかし実際に入所オーディションを受ける時は

書類に年齢・性別・レッスン暦を必須項目とされているため書かざるを得ない。

しかも募集要項には年齢制限があるのだ。

矛盾しているとも思うが制限年齢以下であれば問わないという意味なのだろう。

だが、入所してみるとレッスン暦を講師に見られているためそれにより

他の人より少し難しい課題を与えられたり等があったりもする。

そしてクラスメイトにも過去他に通っていたことが知られると人によっては過剰な期待をするのもある。

そのため「未経験」である方が弊害がないとも言える。

この辺はまだ表の話である。

裏の話としては

最近の声優業界はビジュアルを非常に重視するということ。

20年前くらいに【声優】というものが職業として世に知られ始めたが

まだまだ陰の活躍者といった感じで顔出し等はほとんどなかった。

10年前くらいに人気の花形職業になり始め、声優雑誌が増え

顔出しの仕事も同時に増えてきた。

そして今、声優が陰の活躍者だったというのは過去の話。

雑誌にイベント、ライブや握手会。顔出しは当然。

インターネットやカラオケという施設の普及によりイメージや歌唱力も大事な要素となった。

そのため、現在業界で必要とされている人物は

- 1、ビジュアルが良いこと（顔はもちろんのことスタイルやファッションセンスも含まれる）
- 2、若いこと（若いということが話題になるためか、声優の若年齢化が進んでいる）
- 3、声に特徴があまり無い（日常を描いた作品が多くなってきたため特徴があり過ぎると浮いてしまう）
- 4、歌唱力（歌う機会が増えてきたためある程度以上の歌唱力が求められる）
- 5、滑舌（技術の進歩により多少加工はできるらしいが何を言っているかはっきりわからなければ話にならない）

以上のことが満たされている人物であれば事務所に所属もそう難しくは無いかもしれない。

1～5の中で2は推測だが他は実際に養成所で講師から聞いた話である。

まとめ

「ビジュアルが良くて若ければ誰でも声優になれる」と思われてしまうかもしれませんがあくまでもそれは一つの要素であり、実力が伴わない場合は正所属とはなりません。

99%の努力と1%の運で実際に活躍できる声優になれるかどうかが決まります。

1%の運を掴めるかどうかは鍵となります。

努力はして当たり前、それ以上の何を見せてくれるかを雇う側の人には期待しているのです。

そのため、業界で活躍できる声優を目指すというのなら基礎を重点的に練習し

自分を磨くということも同時に行う必要があります。

どうしてもビジュアルに自信がないという場合は”特技”を作ることで打開できます。

例えば「歌やダンスが非常に上手い」「出身地に関わらず各地の方言を喋れる」等は特に有効です。

その他にも他人と違うことをすると「個性のある人物」という認識になり

オーディション等で相手に印象づけることができます。

あとは一般向けのオーディションに参加するのも悪くは無いです。

ただ、出来レースの場合もあるので必ずしも公平に見てもらえるわけではないことを理解し落ちたからといちいち凹まないことが大事です。

一般オーディションで公平に見てもらえるほうが稀だと思った方が良いでしょう。

今の時代 仕事<声優 という状態になっていてタレントやアイドルもアニメのアフレコ等をするため

職業：声優 と言えるけれど実際にはアルバイト等で生計を立てている人が多いということも理解した上で

それでも諦められない！という強い思いを持った人だけ目指すことをおすすめします。

こんなことを言うと私が書いた「演劇入門書」の紹介文が嘘になるのでは？と思われるかもしれませんが

嘘ではなく、あの本を読んで努力の末に”声優”という職業に就ける可能性は何もしないよりは上がります。

あくまで本人の努力次第ではありますが。

色々書いてしまいましたがここに書いたことは全て私が今まで体験し、教わってきたことですので

もし読んでいて自分の知っていることと違うと思っても教えた人間が違うためそういうこともある、とってください。

ここまで読んでくださってありがとうございます。

声優を目指す人に少しでも何か糧になっていれば幸いです。

夢と現実

<http://p.booklog.jp/book/90957>

著者：鈴木ユウ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/kuma-8/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/90957>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/90957>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ